

一緒に考えよう!日本の未来戦略

科学技術政策は、まさにその国の未来戦略です。科学技術立国として世界をリードし続けるために、今、私たちがしなければならないことは何なのか、なにが必要なのか……あなたも一緒に、日本の未来、そして世界の未来を考えませんか?

日時 平成22年11月20日(土) 15:00~16:30(90分)

会場 東京国際交流館  **サイエンスアゴラ 2010**
会議室1(4階)

主催:世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)
(AIMR,IPMU,iCeMS,IFReC,MANA)、日本学術振興会
定員:80名

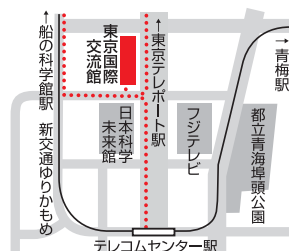
当日参加可。配布資料の準備の都合がございますので、参加を希望される方はできるだけご氏名を明記の上、11月17日(水)までに jspstoplevel@jpsps.go.jp へ電子メールでお知らせください。

■進行

高柳 雄一 多摩六都科学館館長



NHKで科学系講座番組・科学ドキュメンタリー番組を企画演出、科学分野のNHKスペシャル番組プロデューサー・NHK解説委員として、科学技術を一般社会へ伝えてきた。退職後、高エネルギー加速器研究機構、電気通信大学で広報室を立ち上げ、科学技術研究現場と社会を結び、現在は多摩六都科学館館長として地域社会で科学技術の役割を市民と考える機会を広げている。



お申込み・問合せ先:日本学術振興会
Tel:03-3263-0967 Fax:03-3237-8015
e-mail:jspstoplevel@jpsps.go.jp

アクセス:新交通ゆりかもめ「船の科学館駅」
東口下車(徒歩約5分)、「テレコムセンター駅」
下車(徒歩約4分)/東京臨海高速鉄道りんかい線「東京レポート駅」下車(徒歩15分)

■話題提供者

春日 匠 大阪大学特任助教

「科学技術と社会の新しい関係を考えるー21世紀を担う『イノベーション』のために」



大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任助教。科学技術社会論・文化人類学。第三世界の生活が先端技術によってどのように変化するかなどに関心を持つ。阪大では大学や専門家と一般社会のコミュニケーションを促進するため、参加型テクノロジーアセスメントや市民の要望に基づいて研究を進めるサイエンスショップなどの事業に従事。

銅谷 賢治 独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構(OIST)代表研究者

「サンディエゴー京都ー沖縄:世界レベルの研究者を集めるには」



人間が生まれ落ちてから大人になってもさまざまな運動のしかたを学習する脳のしくみに興味を持ち、情報科学とロボット工学の視点から、脳の中の神経細胞と物質の働きを解き明かすことをめざし研究を進めている。沖縄科学技術大学院大学の構想に感銘し、先行研究プロジェクトに応募しその第一陣として2004年春に沖縄に移住。国内外から若手スタッフを集めロボット、学習プログラム、生物実験へと研究を広げている。

一杉 太郎 原子分子材料科学高等研究機構(AIMR)准教授

「公的研究機関だからこそできること、しなければならないことは」



自由奔放に発想して研究を進める。これを毎日楽しんでいる。自由というものは何ものにもかえられないもので、私が企業から大学の研究者に転じた際に最も重視したことである。現在は材料科学の研究を行っており、百種類以上の元素が結合して織りなす、無限に広がるとも言ってもよい物性(物質の特徴)の世界を走り回っている。最終目標は室温超伝導体の発見である。

福永 雅喜 免疫学フロンティア研究センター(IFReC)助教

「日米の研究者をとりまく環境の違いについて」



鍼治療における脳内作用機序への興味から研究者としてのキャリアを開始。その後、磁気共鳴画像法(MRI)による脳研究へ。平成15年より7年間、米国国立衛生研究所で研究に従事し、この春より大阪大学 IFReC WPIプログラムに参加。現在、中枢神経系における免疫機構のダイナミクスを捉えるべく、磁気共鳴法やその他のイメージング手法を用いた研究に取り組む。

What's WPI?

世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)は、世界から第一線の研究者が集まる、優れた研究環境と高い研究水準を誇る「目に見える拠点」の形成を目指しています。「世界最高レベルの研究水準」「国際的な研究環境の実現」「研究組織の改革」「融合領域の創出」を実現するため、拠点長の強力なリーダーシップのもと独自の運営に取り組んでいます。また、公用語の英語化をはじめ、スタッフサポート体制の充実により、世界から集まる研究者が研究に専念できるような環境を提供していきます。



〈目指す拠点のイメージ〉

- 国内外の第一線の研究者を招へい
- 国際水準の魅力的な研究環境と生活環境を整備・拠点長の強力なリーダーシップ、厳格な評価システムと評価に基づく給与、スタッフ機能の充実などにより、研究者が研究に専念できる環境を提供
- 職務上使用する言語は事務部門も含め英語が基本
- 外国人研究者の子女教育支援や生活支援の充実
- 世界トップレベルの主任研究者10~20人程度
あるいはそれ以上
- 総勢200人程度あるいはそれ以上の人員体制
- 研究者のうち常に30%程度以上は外国人

京都大学 物質-細胞統合システム拠点 /iCeMS

■機能性柔構造(細胞内の多分子構造体や人工物質)を制御する仕組みを解明し、幹細胞(ES/IPS細胞など)の医学・創薬への応用や、環境・産業技術の開発に貢献する。



拠点長:中辻 憲夫

東北大学 原子分子材料科学高等研究機構 /AIMR

■材料科学・物理学・化学・工学に関する世界第一線級の研究者が集まり、原子分子の理解を基盤に革新的機能材料を創製して社会貢献する、材料科学研究拠点を形成する。



拠点長:山本 嘉則

九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 /I²CNER [2010年12月1日設立]

■CO₂の排出を減らすとともに、非化石燃料によるエネルギーシステムを構築するための基礎科学を創出することによって、環境調和型で持続可能な社会の実現に貢献する。



所長:
ペトロス・ソフロニス
(Petros Sofronis)



WPI・AIMR



独立行政法人物質・材料研究機構 国際ナノアーキテクトニクス/MANA

■新しい技術体系ナノアーキテクトニクスにより、材料開発の新しいパラダイムを切り拓き、新材料創製によって、持続可能な社会との実現とイノベーション創出を目指す。



拠点長:青野 正和



大阪大学 免疫学フロンティア研究センター/iFReC

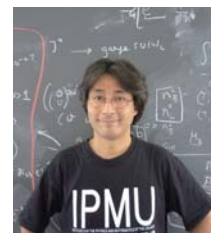
■世界トップレベルを誇る免疫学研究者を中心に、生体イメージングや生体情報学を取り入れた新しい免疫学分野を開拓し、世界のリーダーシップがとれるような拠点を目指す。

拠点長:番良 静男

東京大学 数物連携宇宙研究機構/IPMU

■数学、物理、天文の英知を結集し、暗黒エネルギー、暗黒物質、統一理論等を研究。素粒子の力や重力の起源と時空構造の関係を明らかにし、宇宙の起源と進化の解明を目指す。

拠点長:村山 斉



文部科学省

世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)は、平成19年度より文部科学省が取組んでいる国家プロジェクトです。



(独)日本学術振興会は文部科学省の委託により、本プログラムの審査・評価・管理業務を行っています。